

●近畿ブロック記念講演 平成16年9月9日(木) 大阪キャッスルホテル

## 社員の意識を変える快適空間・情報オフィス

池内勝彦 ちろ 千路研究所 代表

2002年9月に竣工した「KTCものづくり技術館」(京都機械工具株式会社、第16回「日経ニューオフィス賞」ニューオフィス推進賞・経済産業大臣賞)は、創立50周年の記念棟として企画された建物です。

## 情報の受発信拠点として

同社は、スパナやラチェットハンドルなどのハンドツール(手工具)メーカーで、同社のKTCブランドは、全国の自動車整備を行う約38万人のプロメカニックの7割に愛用されています。本社工場は、京都駅から奈良方面に近鉄電車です15分程の大久保駅を最寄り駅とする久御山工業団地にあります。約1万2000坪の工場敷地の南端に建てられた建物は、高さが13.75m、延べ床面積が約900坪の比較的小ぶりな3階建てです。

コンセプトは、21世紀を生き抜くKTCのグローバルな情報の受発信拠点と位置づけ、建物が人(お客様や社員)を招くビル、その人が運んできた情報が飛び交うビル、その飛び交っている様子が人の動きとして視覚的に表れるオフィスを目指しました。



KTCものづくり技術館 外観

## 45の詳細検討チームをつくる

同社はメーカーとして工場や機械などの設備投資は行っておりますが、オフィスビルへの投資はめったにありません。それだけに50周年記念の意味合いもあり、経営から出されるビルへの機能要求は、新製品の開発(営業と開発の情報共有化オフィス)・品質の維持向上(QL室・試作室)・売上向上(ショールーム・プレゼンルーム)・福利厚生(新Jルーム)・教育設備など多彩でした。

加えて、セキュリティ意識の向上として非接触型ICカードの導入、CS対応としてPHSと無人受付システムの導入、環境意識への醸成として屋上緑化庭園への挑戦を盛り込み、シンプルな動線をもつ素晴らしい3階建てが設計されました。

これらの推進体制として、社員9名による記念棟建設委員会のほかに、社員100名からなる45の詳細検討チームをつくりました。

このチームによる「要望事項」と「運用ルール」の2項目は箇条書きでPC上に社内開示しました。そして、45番目のチームの課題は「この技術館の運用ルール」でした。

## 感性と技術が伝わる建物に

そして、大切なのは、幹部社員・委員会・45の詳細検討チーム・建設協力企業様など、建設に携わるすべての人々との意

識の共有化でした。

そこで、60頁から成る「グリーンブック」なるレジュメを80冊作成し、社内外の関係者に配布しました。壁にぶつかった時、意見が分かれた時に戻る場所としてのグリーンブックです。

建設に当たって共有したい意識は「2002年の技術と感性を、後世の人々に伝え 評価願えるものづくり」でした。そのためには、「昨日の情報ではなく、今日の情報」で取り組むことを徹底しました。

竣工後、見学に来られたお客様の中で「何で、普通にこのようなオフィスが出来ないのだろう」と言われた一言を大変うれしく思いました。

それでは、ビルのオフィスの何処にコンセプトが具現化されたのか、パワーポイントでご紹介します。(以下略)



ラインコート越しに見るオフィスフロア